

富士神社古墳(文京区)

ここが富士神社



「富士社」とある



前方の高まりが富士神社古墳



前方後円墳という



左手は後円部、右手が前方部であるが分かりづらい



前方に説明板がある



この地は南北朝時代には富士塚と呼ばれていたことや前方後円墳であることが記されている

富士神社

本駒込五・七二〇

富士神社はもと、旧本郷村にあった。天正元年（一五二二）本郷村名主木村万右衛門、同牛久保隼人の二人が、夢に木花咲耶姫命の姿を見て、翌年駿河の富士浅間社を勧請した。

寛永六年（一六二九）加賀藩前田侯が上屋敷（現東京大学構内）を賜わるにあたり、その地にあった浅間社はこの地に移転した。東京大学構内一帯は住居表示改正まで本富士町といていた。

社伝によれば、延文年間（一三五六〜六一）には既に現在の社地は富士塚と呼び、大きな塚があったといわれる。この塚は一説によると、前方後円古墳といわれる。

富士神社の祭神は、木花咲耶姫命で、氏子を持たず富士講組織で成り立っていた。

山嶽信仰として、近世中期頃から江戸市民の間に、富士講が多く発生した。旧五月末になると富士講の仲間の人々は、六月朔日の富士登拝の祈禱をするために当番の家に集まり、祭を行った。そして、富士の山開きには、講の代参人を送り、他の人は江戸の富士に詣でた。富士講の流行と共に、江戸には模型の「お富士さん」が多数出来た。文京区内では、「駒込のお富士さん」といわれること、護国寺の「音羽の富士」、白山神社の「白山の富士」があった。

郷土愛をはぐくむ文化財

文京区教育委員会

昭和五十六年三月

後円部の墳頂に社殿がある



さまざまな富士講の石碑がある





墳頂から見下ろす





社殿(これは拝殿)/RC造





社殿は戦災で焼失し昭和36年に再建されたという/社殿前の鳥居は昭和46年の造立らしい





向拝柱の上部は極端にしぼられている









右手は本殿になる



拝殿と本殿を幣殿が繋ぐ

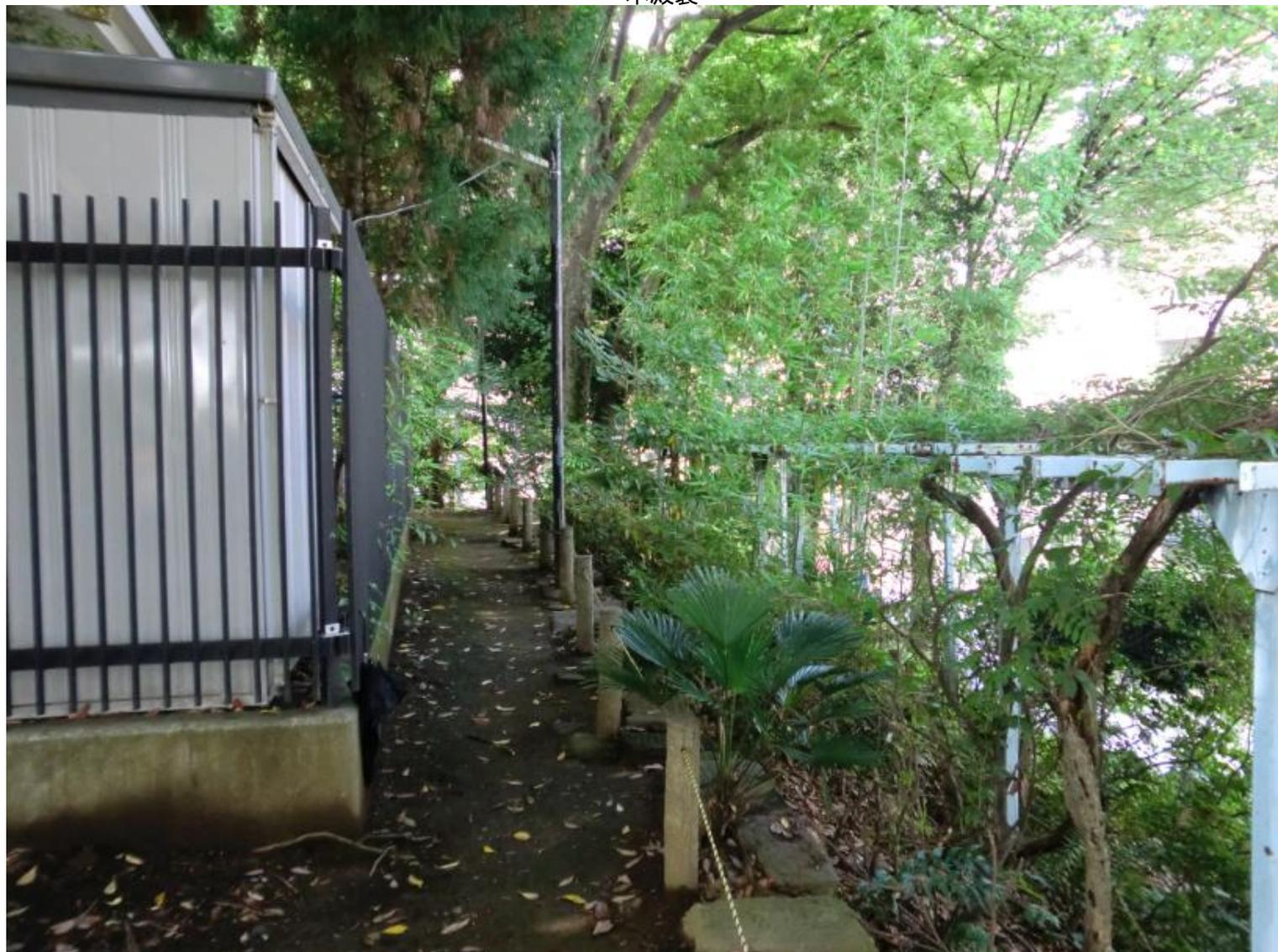


本殿





本殿裏





社殿のある後円部から一段低い前方部を見る



前方部









前方部から後円部を見る





こちらの階段から下りることにする





さまざまな石造物がある



手水舎



反時計回りに古墳の周囲を歩いて見る



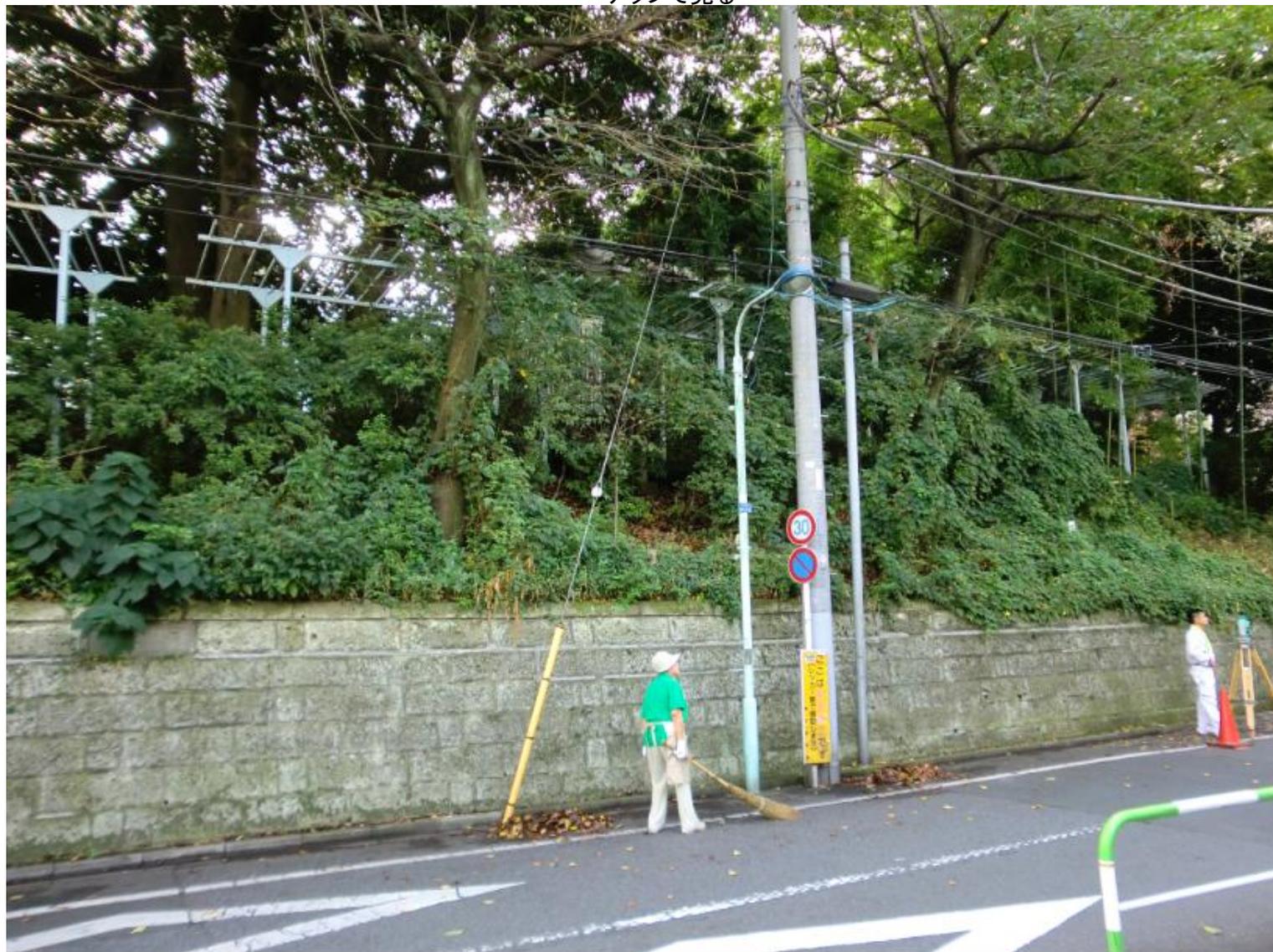




こちらは本殿の裏側になる



アップで見る





参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/tokyo/23ku/huzizin.html>

http://www.tesshow.jp/bunkyo/shrine_honkoma_fuji.html

<http://kofun.info/kofun/1453>

<http://fu1to.i-ra.jp/e339343.html>

<http://jinja-kikou.net/bunkyouku3.html>

赤印

